

憲教類典

一ノ二二一 西丸  
一ノ二二二 若君様  
一ノ二二三 御方々様  
一ノ二二四 御三卿

73

2770

11





意放類典

廿一

西九

門ワ保 3  
番 2776  
卷 11



憲教類典

一  
廿一

西丸



西丸

一ノ二十一

書以詩典

西丸



画次

一六二十一

元和九年癸亥年四月廿六日



條々

- 一 於腰掛の小の聲の雜談仕り安事
- 一 腰掛の行の白の話のことの事
- 一 腰掛の婦の又の後の見の事
- 一 ちのけの出の事
- 一 腰掛の白の淫の事
- 一 片の話の事
- 一 楊の之の様の事



一 高のりきり ねいふし事一付休する  
法事いふ人ぬる料限りぬぬ  
一 高のりきり ねいふし事一付休する  
一 高のりきり ねいふし事一付休する  
一 高のりきり ねいふし事一付休する  
一 高のりきり ねいふし事一付休する

一 高のりきり ねいふし事一付休する  
一 高のりきり ねいふし事一付休する  
一 高のりきり ねいふし事一付休する  
一 高のりきり ねいふし事一付休する  
一 高のりきり ねいふし事一付休する

一 高のりきり ねいふし事一付休する  
一 高のりきり ねいふし事一付休する  
一 高のりきり ねいふし事一付休する  
一 高のりきり ねいふし事一付休する  
一 高のりきり ねいふし事一付休する

え和九年に月廿六日

安三庚寅年九月十八日

後



一 大納言をよめるを才一に令取読事を  
お讀下申付し事

一 参事法度之儀を不参何事お讀  
し刻不参ん中座申出し多分よ法  
具負御願なく申付し是迄及  
し別段付し事之儀云と事

一 新規之儀申上之儀新製  
入申之儀申上御所他付し儀  
申上之儀申上付事

一 但男女様之儀申上御所  
付事

一 大下お守世方也

一 安永二年九月十八日 法判

阿部忠清  
松平和重

一 付書白し事

一 殿右院様御凡書移読

一 御書白し事



夏安之庚寅年九月十八日

條

一 一事奉佛法及一切於 法本丸交  
くは條目之類 亦之遠者 能中定統  
口論 是亦兼日如也 終如洋以望之  
ある事

一 法書傳九後之受 兼之類 亦之類 亦之類  
之類 亦之類 亦之類 亦之類

一 法書傳九後之受 兼之類 亦之類 亦之類  
之類 亦之類 亦之類 亦之類

一 當不之亦法用之くして 化之座席  
兼之類 亦之類 亦之類 亦之類

一 疑極之凡信を好く 亦之類 亦之類  
法す 兼之類 亦之類 亦之類 亦之類  
之目 亦之類 亦之類 亦之類 亦之類  
仕之 兼之類 亦之類 亦之類 亦之類  
一 殿中 兼之類 亦之類 亦之類 亦之類



企急事一 味不て仕事一

一 侍主事一 一 事の事不及事一 読事申一

一 一 事の事一 一 事の事一 一 事の事一

一 一 事の事一 一 事の事一 一 事の事一

一 一 事の事一

附若くはあつて読事申一 一 事の事一

今急事候十一 仕仕一 一 事の事一

右一 條一 一 事の事一 一 事の事一

於有くは 紀略一 一 事の事一 一 事の事一

一 一 事の事一

夢安三年九月十八日

付書付く事一 一 事の事一

一 一 事の事一 一 事の事一

一 一 事の事一 一 事の事一

夢安三年九月十八日

一 一 事の事一 一 事の事一

一 一 事の事一 一 事の事一



一 尚書之自願也 終付之時 子孫に  
傳へて 已に身運 恨みあるべし 自ら中  
絶しおあつて 一お世奉り支

私に佛例をたて 大に 十條 十此十條  
を加へて 條々とりあへ

大に 校合して 念又の徳入に

孝女之庚寅年九月十八日

法成附誌法成の法成身

一 見

一 佛本丸 大納之極年 始に法成を

てあるえり但 公方極法成を

入法之時 法成之事

一 正月之日 法本丸之官に 法成を

以て 法成之事

一 女官の之候也 卯丸に 法成を以て

法本丸 法成之事

一 卯日十五日廿八日 法本丸を以て



一 前々 法本丸ト 法成法本丸ト  
以て 還法之事

一 若き 法本丸トありて 反先  
法本之事

一 年次手札にて 法本丸トありて 若き之事  
附法本友・法本丸ト付入之事

一 出家社人之法本丸ト 法本丸法本丸ト  
とらるる入之事

一 年次手札にて 法本丸トありて 法本丸ト  
たる之事

附江戸所中 京大坂下 所人法本丸ト  
て付事

一 女子手札 八部トありて 法本丸トありて  
法本丸トありて 法本丸トありて 法本丸トありて  
とらるる入之事

一 大廣間より 法本丸トありて 法本丸トありて  
とらるる入之事



一 法 對面所より法れき紀伊殿水戸殿  
支宰相殿中將殿但乞ハ年姪女等  
向より同家より外諸大名系如回向  
之付き不依何付たし面

法目見法礼もつらき事

附法たるに字先 兵使とて女等

以上

天文安之三年九月十八日

此法書自しまはたと

中殿有院極

弟丸は法移法よりなるは 終りしとて終

法書は

天文安之庚寅年九月十八日

法内法方は法條目

之

一 法 卷下は法度し事 牧野助之丞  
鈴木重之助柳は孫重之助伊豆新助  
水野長方等より尾越を法多田之八郎



久保のき持け八人一日一夜のあか  
きりくきりきりきりきりきりきり  
少くもきりきりきりきりきり  
きりきりきりきりきりきりきり  
きりきりきりきりきりきりきり  
きりきりきりきりきりきりきり  
きりきりきりきりきりきりきり

一 斗第急事一をとおれきりきりきり  
移時刻一にて自然湧現きりきり  
きりきりきりきりきりきりきり  
きりきりきりきりきりきりきり  
きりきりきりきりきりきりきり

- 一 大い田公一仕事一
- 一 大い古丸外人宛一日一夜あかへ一法丸
- 一 飯一い府の田が裏の飯も不及法
- 一 屋祿裏以下と入急な飯仕事一
- 一 大たい焼根下急事一仕事一
- 一 夜中きりきりきりきりきりきり
- 一 千一自風吹り時を浮油のすきり
- 一 きりきりきりきりきりきりきり



一 風呂を焼く事 新夕時を曉七の付  
たつて多し 夫々後で継行有し  
とて多し 毎く毎く事

一 本定焼く事 提灯ほん何く  
月夜叶合し 此亦、係止事

一 月門出入事 形もくして女上下  
も一切通す 夫々後中、奥に  
も形一判事 夫々後、継行  
もくして事

附 中、自然法用、事  
あ、おちの人は、おとの  
も、おちの人は、事  
も、おちの人は、事

一 役人、不、夫々、法、不、事  
あ、おちの人は、事  
切出入、夫々、事  
も、おちの人は、事

一 醫、師、事、夫々、事、院



因庭より伯布元春院を法用之  
之時より法基下迄何之ある一  
此亦書之より不載の事より法用  
よりより事毎一法用より一  
一切不可事

附右より自然醫師入の付は後あり  
またあるは法より上豊後寺の和事  
より一室観して事

一 大し子と女侍の事

一 徳の事より法用より事 表使女中

より一出の事より八人の流下事

右世よりとあるは事也仍執達也

受安女之年九月十八日

此法書付く事は

少殿方院様和丸の法務院より事は  
法書より法附書は

法書より法附書は



寛文安之廣宣年九月十八日

法役方法條目

以ん

一 奥方法用し後より事務備前より松  
寺の事より一 寺後より 和泉寺より  
して中付事

一 奥方より一 法用し細工方へ依借事  
寺の事より一 寺後より 和泉寺より  
下り付事取等入志と吟味事と

法本の法勘定所と定規と帳面判形  
備前の事 寺後より 他法より  
法用より別より外より寺後より  
して中付事

一 法他の方法用し後より事務備前より  
和泉寺より一 寺後より一 寺後より  
他より後より 和泉寺より判形法勘定  
この事柄事

一 法細工方より一 寺法用し後より法より



まゝし 其後其の如何に付へし  
並に其の如何に味しと 法本の勘  
定不に疑しお極極面し判形に  
まゝし 法本の元道判するも  
し 法本の元別、其外に其の  
この中付事

一 法本の元別、其外に其の  
切に何し、其の事 徳し  
勿論、年中、法勘定、  
法本の元

附法本者、其の如何に付へし  
其の如何に味しと 法本の勘  
定不に疑しお極極面し判形に  
まゝし 法本の元道判するも

一 法本の元別、其外に其の  
切に何し、其の事 徳し  
勿論、年中、法勘定、  
法本の元

一 法本の元別、其外に其の  
切に何し、其の事 徳し  
勿論、年中、法勘定、  
法本の元



し下中付事

一 法同州方より事し多し其後何し下付事

一 法同州方より事し多し其後何し下付事

一 法同州方より事し多し其後何し下付事

一 法同州方より事し多し其後何し下付事

一 法同州方より事し多し其後何し下付事

付事

一 徳楽方より事し入申後大之保等事

一 安友より事し令名事し下付事

一 右條より事し其後何し下付事

一 法本丸法勘定不事し其後何し下付事

一 他年より事し法入申し其後何し下付事

一 其外より事し其後何し下付事

也

安友安之年九月十八日

此法書付し其後何し下付事

一 殿右院様より事し其後何し下付事

一 其外より事し其後何し下付事



安土之康寧年九月廿二日

誌大名法祝儀就之と法書之就

法移法儀儀就之と宛

一 如年取之千石以上方月滿之儀禮  
了中とい事

一 惠成二箇月之箇月迄し子息例  
年歲始之儀禮中之儀成之方月深  
よて法礼之とい事

一 後十方石十九方石以上之  
法儀儀上 自限法儀儀宛廿之と左  
移之とい事とい事

一 後十九方石法儀儀方石以上

銀め枚宛

（近江）

同之枚宛

（おさ）  
（岡野）

一 本外日法儀儀宛之と法礼之と  
法了代也年始法礼之とい事



一 眞方之法後後了了廿六日事

九月廿二日

此法半付了了未了右也

慶有院極和凡之法福徳之良也

修和之法波附去就上之於上之認

入也

安之庚寅年九月廿二日

同時書字中凡法後後就上之元

一 之朱二卷

悟上寺

一 朱一卷

傳通院

一 朱

良校

一 朱

南院

一 朱二卷

文殊院

一 朱一卷

明王院

一 朱一卷

培向院

一 朱一卷

醫王院



- 一 朱一卷
- 一 朱一卷
- 一 朱一卷
- 一 朱一卷
- 一 朱一卷
- 一 朱一卷
- 一 朱一卷

- 西苑院
- 龍光院
- 法寶院
- 高靈院
- 天章院
- 正德院
- 宣德院
- 如意臨院

右行... 此外... 考...

右... 除...

安... 宣... 九月

泰向... 公家... 苑... 池... 走... 人... 之... 苑

一 傳奏  
藤原

水... 伊勢... 柴村... 佑... 淳... 友

一 院使  
園大納言

相... 平... 後... 淳... 今... 村... 八... 節... 大... 坊...



一 新院使 清水寺大納言 右目人

一 執使 西園寺大納言 六御伊勢守  
能規寺守

一 院使 藤原并中納言 一柳之右衛門  
松下八右衛門

一 新院使 足倉守宰相 加茂徹於正  
成瀬六右衛門

一 女院使 藤原守宰相 織田右衛門依

在子以書付 与子 母 子 官 了 承 承 承

宝永二乙酉年十二月十日

佛礼日 御礼 出仕 一 元

一 朔日 佛之家方

一 十日 乃石以之



一 廿八日人談及人奇事其言其言之妙其言  
分神此如仕古語之言也其言及古之言  
其言但多事如所言之言其言其言其言  
大名法法其人其言其言其言其言其言  
出仕之言

一 廿月廿日斗曆年同於其言其言其言  
廿八日廿月廿日九月廿日其言其言其言  
其言其言其言

一 九月九日花色小神不似何色其言其言  
其言其言

一 十二月廿日同其言其言其言其言其言  
廿八日斗曆年同其言其言其言其言

一 廿八日斗曆年同其言其言其言其言  
其言其言其言其言其言其言其言其言  
其言其言其言其言其言其言其言其言

宝永二乙酉年正月廿六日

其言其言其言其言其言其言其言其言



朝日

十日

清之家方 万石堂父子

高家礼

山崎寺居元 大石支院

交培寺合内  
口礼 寺内

二重友之字家 今地院

大德院

廿八日

林大学以

布衣以度役人

文智寺合

三子石堂之妻居 布衣之妻合

三子石堂之妻居

法不法胎之醫師 中興寺中住

中興寺中住

宝永二年乙酉年壬辰月廿六日

卯丸中乞

城之元

一 十六日山崎寺居元 大石寺以礼 文智寺

合之田表向山礼 山崎寺居元 表之字家

一 廿八日交培寺合并法本丸山月次居出山

之寺之内之寺合又三子石堂之妻居

清法不法胎之醫師 大石寺居元

城之

一 大石寺居元之妻居 大石寺居元



城口

一 年終之由申書ししに之有也 城口

一 少子向ふて以之家方并十女出仕し

分斗し有也 城口

山

宝永二百年壬辰月廿六日

享保十乙巳年六月廿四日

西丸出仕し是

年始

一 御本丸出仕 城口 面々之由申書

出仕出仕御申書退仕御申書

馬代々 御本丸出仕御申書

一 寺社之由申書御申書御申書

一 六日御申書御申書御申書御申書

御申書御申書

一 町人御申書御申書御申書御申書



一 袂上抄之 佛本丸占去納

女部白

一 佛之家

一 万石以上并婦子

一 高之家

一 佛留寺居

一 大佛留寺居

一 表高之家

一 交裕寺令之内表向分礼之表以分

一 金地院

一 月次

一 節白

一 佛之家并松平加賀寺湯治

一 十五日

一 高之家

一 佛留寺居

一 大佛留寺居

一 交裕寺令之内表向分礼之表以分



一 表高家  
一 金地院

廿八日

- 一 布衣以上之役人
- 一 文智奇合
- 一 之石以上之奇合
- 一 布衣以上之奇合
- 一 法不法眼之醫師
- 一 中子矣山中性

一 園中書

想書仕

佛平丸と孫丸と印と丸と出仕

一 事

想書法礼之事

西丸と出仕之事

右と通了と丸と

六月



元文二丁巳年二月十七日

松平左近將監啓後

和丸出仕元

月次

朔日

一 御之家并松平加賀守御法以備代元  
以奏者番嫡子有之字以爲之拈大  
以爲以

十六日

一 万石位之兼嫡子交代奇合之内表向合

清礼有知以之表之字令此院護持院

廿八日

一 布衣以上位人交代奇合之子名以

上之奇合布衣以上奇合法系法眼

之醫師中奥以之性同以中身

右之通一以水師口

元文二丁巳年二月廿三日







大綱之極簡表也 出師之遊也  
右之類也 其之命也 其之遊也

室曆十二年十月十日

若君孫也 秋上如先

- 一 端年宜陽某也
- 一 年既八期日
- 一 系系如禮

一 海國海國禮

一 若若某七夕秋上

一 口切也某物之

一 年中為何師 積境 獻上

右秋上物 不 公方極 西凡

其 色 且 未 年 始 下 了 者 就 上 年 既 ①

八 期 一 師 左 方 月 錄 英 端 年 宜 陽 某

其 以 後 後 時 後 一 師 本 凡 上 下 亦 他 也

其 亦 一 秋 上 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦



右ノ部可ハ有部以

此所事付ノ事ト有テ

孝茶院持於此 佛誕生ノ事ハ  
終書以テ致附書然之ニ致トシ流合

宝曆十二年十一月報

卯凡ハ右仕ノ元

年迄

一 佛本丸ハ是 城ノ面ノ事高ノ事ハ

出仕福奏去中及出仕は左ノ

了代ハ 法本丸ハ納戸ハ納ノ

一 寺社ノ事 卯凡ハ法礼ハ若シ不及ハ

一 六日法礼ノ事 社卯凡ハ然上ハ也

法本丸ハ納

一 所ノ諸職人未卯凡ハ法礼ハ若シ不及ハ

法本丸ハ納

女子ハ白ハ部



一 傳之字

一 万石以上之異嫡子

一 了字

一 傳留者

一 大傳書以

一 交代書合之表為

以礼礼者

一 表了字

一 令地院

一 護持院

目次

朝日

一 傳之字并松平加賀守松平越前守海法

傳傳代元傳元傳奏去与嫡子

了字傳了字居大傳書以

十日

一 万石以上之異嫡子

以礼礼者

一 令地院

廿八日

一 布衣以上之傳人

一 了字以上之傳令



- 一 法予法眼之醫所一中之奥法小姓
- 一 同法十五

出仕

- 一 法本丸より出仕し奉

- 一 和丸より出仕し奉 大々色才未奉
- 一 奉給合 法本丸より出仕し奉
- 一 出仕者より奉給合

此法本丸より奉給合

孝養院極於和丸法誕生し奉給合  
 仍和丸より奉給合

明和六巳丑年六月廿四日 松平右近將監殿後

- 一 西丸法修産後より明燈台より後法之
- 一 関通路有し奉
- 一 右より通合より奉

六月



明和六乙丑年十月晦日 松平大右将監殿は後

一 十日朝日於卯丸は女給と申膳梅木

より一旬と申卯丸は不及出仕の方と申

この相違に

明和七庚寅年四月朔日 松倉依後守殿は後

一 近し

大細と縁淺きより初めらる

成はらむら出火と云は防大名より一 伐結

事一 法本丸

法成と通はらむら向と云はらむらと申

三月

安永八己亥年六月廿一日 石見守殿は後

一 卯丸たる夫向人と云はらむら後付けは後日と申

廻しは不及一ヶ月と云はらむら及らぬと申

ら附める成候と云はらむら申すは根と云は



天明元辛丑年四月廿二日 四月付

一 卯丸を向只今迄は納戸に之を納  
す法不取泊電 城守君に言はしめ  
四月付中該法を後し以て此度  
味中納戸泊りしもの心付おぬり  
納戸中候引後り候て候候

四月廿二日

天明元辛丑年四月十日

卯丸  
法為り居  
四月付

一 西丸大奥向は丸縁に修繕出し申す付  
十番者法をやり以て本内照面は為り居  
依田豊前守より引後り候中候候  
之を言つて候候を只今迄卯丸は為り  
居り候。其由候候を向し  
返し候候

四月十日







一 法向ふるは法何れに在り乎  
向後若くは是れ若くは先  
り法何れに在り乎  
是れ若くは先  
名号亦何れに在り乎  
此段法達中は

宣古月十二日

新庄と云は

右は法達書に法由付るは  
校合しては餘は



憲教類典

一  
廿二

若君様



英林録典

英奇録

一之二十二

以右君様







但 禮 古 史 之 所 久 也

一 萬 石 以 上 之 禮 古 史 之 所 久 也

一 以 禮 之 儀 之 所 納 也

一 以 禮 之 儀 之 所 納 也

一 以 禮 之 儀 之 所 納 也

一 以 禮 之 儀 之 所 納 也

一 以 禮 之 儀 之 所 納 也

一 以 禮 之 儀 之 所 納 也

以上

室 永 元 甲 申 年 十 二 月

卷

一 有 上 之 禮 古 史 之 所 久 也

一 以 禮 之 儀 之 所 納 也

一 以 禮 之 儀 之 所 納 也

一 以 禮 之 儀 之 所 納 也

一 以 禮 之 儀 之 所 納 也

一 以 禮 之 儀 之 所 納 也

一 以 禮 之 儀 之 所 納 也











御本此と教とてありしに

宝永元 申年 十二月

付申付し来上右之

文昭院様 以才右之 治由之

出之方致所書教とて記上之徳

入上

宝永元 申年 十二月 十六日

一 申付下之書及みし御由一由上

申付下之書及みし御由一由上

申付下之書及みし御由一由上

但申付下之書及みし御由一由上

申付下之書及みし御由一由上

申付下之書及みし御由一由上

十二月 十六日



宝永元 甲申年十二月十九日

一 明後古くも物付し 如く供はりし

ふり 是は昔年迄 勿得し 是は

は 如く 如く

十二月十九日

宝永元 甲申年十二月十八日

一 中細之振上 年始物 之 此方力

之 振上 之 方力 物 之 供 之 人

之 之 之 之 之 之 之 之

十二月十八日

付 是 年 付 之 事 也 如 之

之 振上 係 之 以 是 之 振上 係 之 係

出 之 之 振上 係 之 之 之 之 之 之

係 之 也







中絶あり

申すに及ばず

右之に申すに及ばず

一 申すに及ばず

元文六年庚申年十一月

一 申すに及ばず

竹下代様上

御名はとて申す

以後後世に及ばず

御名はとて申す

御名はとて申す

御名はとて申す

御名はとて申す

御名はとて申す

御名はとて申す

御名はとて申す

一 申すに及ばず

御名はとて申す



但去必在邑邊其師亦即師位  
執事乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一在乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

延亨乙丑年十一月

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃



之也法平法服之匡作見物法

修付之名製斗同中修付之用守

時是 城之修名之修名也

和名也之修名也

一 修名見之物法 修付之修名也

礼聖之八口修名也修名也

之用物也之修名也 城之修名也

修名也之修名也 城之修名也

修名也之修名也 城之修名也

又之修名也 城之修名也

一 修名也之修名也 修名也之修名也

之修名也之修名也 修名也之修名也

一 修名也之修名也 修名也之修名也

右之修名也之修名也

十二月六日

付之修名也之修名也

相修也







了のり色をいふ

十月十五日

此の年付西暦より約一週入の部中

亦序

家曆之壬申年十月一日

経路をいふ

一月一日

一 方納之條 所應之條より始り

乃何 以候候本付一列書

十日 月候程 本付

十一日 日候中 本付

十二日 日候中 本付

右 色相のり 一色色 端

諸元以奉るに書ふ所あり

所平也 一色色

右 色一色色 一色色 一色色







宝曆三年壬申年十一月九日

法隆寺殿

西の山目

一 堀

大細の條は湯のり 堀のり  
西の山目衣のり 堀のり  
出の布衣のり 堀のり  
堀のり

のりの中は堀のり

一 堀

右の堀は堀のり  
堀のり  
堀のり  
堀のり  
堀のり

十一月九日

宝曆三年十一月九日



宣曆二壬申年十月九日

信德寺啟

比國行

一 方細之採以河陽水 涉祿殿

了了子孫 大細之採以方之

十 冲橋之采以佳之相後也

明之采以佳之相後也

冲本丸物也 已之采以佳之相後也

冲本丸物也 已之采以佳之相後也

了了後也

十月九日

比國行 比國行

信德寺 信德寺

比國行 比國行

了了後也

比國行 比國行

了了後也



室書之五申年十月九日

信法寺殿

以目付

一 大細之縁は御湯はる 石の石  
祝波田はるなり。 神平はる  
はるの仕事ありありあはるはる  
城有るはるはるのあはるはる  
之用は

但病余は御湯はるはるはるはる  
はるはるはるはるはるはるはる  
はるはるはるはるはるはるはる

右はるはるはるはるはるはるはる  
はるはるはるはるはるはるはる

十月九日

はるはるはるはるはるはるはる  
はるはるはるはるはるはるはる

室書之五申年十月九日



宣統三年二月廿日

法華經疏

法華經

西元

法華經疏

法華經疏

法華經疏

法華經疏

法華經疏

法華經疏

法華經疏

二月廿日

法華經疏

相摩

法華經疏

法華經疏

法華經疏

入







去細之條以應瘡以特然為名後復  
明後土日於 神聖丸

去細之條以應瘡以特然為名後復

去細之條以應瘡以特然為名後復

去細之條以應瘡以特然為名後復

去細之條以應瘡以特然為名後復

去細之條以應瘡以特然為名後復

一 假年一假年身同才務

右... 二月九日

二月九日

以以書自為此之部也 德又以此部年

之相傳也

宣慶之 卷 固年二月九日

以同付

一 明後十日







御書御力のと紙 修之書申一の  
中一のり石 竹子代若孫  
はくし半一  
右一色三石記

十月朔日

宝曆十二<sup>壬</sup>年十一月三日

一 竹子代孫の半一石右位左様  
若孫若孫の半一石右位左様  
は

十月

宝曆十二<sup>壬</sup>年十一月廿一日

一 若孫若孫の半一石右位左様  
右の力三石  
右の力三石  
右の力三石  
右の力三石







仙和之乃為年十月七日

松平右之助學殿後

一斗月

美乃右孫

御右之助

美乃右孫

御右之助

美乃右孫

右之助

十月

仙和之乃為年十月九日

松平右之助學殿後

一斗月

美乃右孫

御右之助

美乃右孫

御右之助

島山

御右之助

右之助

御右之助

右之助

御加

右之助







但去去在色之隱非於色位  
十方石以之不可傳記之非  
去之亦非記之筆一

一 右之竹節。月夜一以記其以石  
亦有如竹節

一 右之竹節。月夜一以記其以石  
亦有如竹節

十月

月相二之為年十月十日

一 十月十日。月夜一以記其以石  
亦有如竹節

一 十月十日。月夜一以記其以石  
亦有如竹節

十月

月相二之為年十月十日

一 十月十日。月夜一以記其以石  
亦有如竹節

一 十月十日。月夜一以記其以石  
亦有如竹節



若君存 御幸信

留山 御幸代

御幸日 及

御幸日 及

右 包 三 日 水 舟 日

作 和 二 日 為 年 十 月 九 日

一 御 幸 日 水 舟 日 御 幸 日 及

若君存 御幸信 御幸日 及

二 御 幸 日 及

安永 六 丙 申 年 十 月 十 日

一 御 幸 日 及

一 御 幸 日 及

御 幸 日 及

御 幸 日 及



根柢以煙忍收一各一之一也  
城事一

一 高寺初一向一山一 師本九月  
之一中一其一后一之一傳一之一之一紙一

一 在一山一色一一一向一 一一紙一了一之一紙一  
事一

一 在一江一戶一原一於一一一向一一一

師本九月一向一山一其一后一之一傳一之一之一紙一

一 在一山一色一一一向一 一一紙一了一之一紙一

一 在一山一色一一一向一 一一紙一了一之一紙一

一 在一山一色一一一向一 一一紙一了一之一紙一

一 在一山一色一一一向一 一一紙一了一之一紙一

一 在一山一色一一一向一 一一紙一了一之一紙一

一 在一山一色一一一向一 一一紙一了一之一紙一

一 在一山一色一一一向一 一一紙一了一之一紙一

一 在一山一色一一一向一 一一紙一了一之一紙一



此以中付為處一節に徳入は部中  
了り條に

安永五酉申年九月十九日

以圓付に

一 為丸に麻疹病人并病病人名

一 振り付に中屋少ありは波に君

高し了り是に也為丸は圓に下成

九月十九日

此以中付為處一節に徳入は部中

了り條に

安永五酉申年九月十九日

以圓付に

一 此納る條に麻疹病人并病病人名



以授經書付一日刻

廿日

廿日

廿日

廿日

日頃

初日書付

十日書付

廿日書付

右一書付如左

城之

以授經書付一日刻

佛本丸

右一書付如左

以授經書付一日刻

佛本丸

安永九年二月朔日

一書付如左

右一書付如左

以授經書付一日刻



分以爲物以爲以之之深惟之也  
精之之之用也

右之之之之之之之之之之之之

之之之之

之之

以以半自爲之之之之之之之之  
相傳之

安永西申年二月十日

一太細之得之得湯之也 石之也

以以以以以以以以以以以以以以

以以以以以以以以以以以以以以

但以以以以以以以以以以以以以以

中中中中中中中中中中中中中中

以以以以以以以以以以以以以以

一在在在在在在在在在在在在在在

一在在在在在在在在在在在在在在







今日如九、水出、不少、乃之、既之  
以、是、在、也、如、此、以、同、付、入、了、也、通  
去也、也

天明元年五月十八日

一、所、書、以、若、梅、以、事、一

若、是、以、梅、以、事、一、梅、以、事、一  
右、之、也、以、以、水、梅、以、事、一、同、付、入  
梅、以、事、一、梅、以、事、一、梅、以、事、一

天明元年五月十八日

一、所、書、以、若、梅、以、事、一

梅、以、事、一、梅、以、事、一、梅、以、事、一  
右、之、也、以、以、水、梅、以、事、一、同、付、入  
梅、以、事、一、梅、以、事、一、梅、以、事、一







天相元 辛丑年 五月十八日

一 涉事以是日 修飾以新也

清以甘而名以之 向之 父子

年友 子也 年如也 城之 子

所以之 向之

子也 孫也 若 孫也 子也 子也

孫也 禮也 子也 子也 子也 子也

子也 子也 子也 子也 子也 子也

子也 子也 子也 子也 子也 子也

子也 子也 子也 子也 子也 子也

子也 子也 子也 子也 子也 子也

子也 子也 子也 子也 子也 子也

子也 子也 子也 子也 子也 子也

子也 子也 子也 子也 子也 子也

子也 子也 子也 子也 子也 子也

子也 子也 子也 子也 子也 子也

子也 子也 子也 子也 子也 子也







西元... 修... 市... 附...  
向... 若... 附...  
修... 附...  
向... 附...  
又... 附...

付... 附... 附... 附...

天... 附... 附... 附...

一... 附... 附... 附...  
附... 附... 附... 附...  
附... 附... 附... 附...  
附... 附... 附... 附...

王... 附... 附...

付... 附... 附... 附...







天保元年辛酉年壬子年

一 御書長春府江 江州府江州府

口紅多山

御書長春府江 江州府江州府

御書長春府江 江州府江州府

一 御書長春府江 江州府江州府

御書長春府江 江州府江州府

御書長春府江 江州府江州府

御書長春府江 江州府江州府

御書長春府江 江州府江州府

御書長春府江 江州府江州府

御書長春府江 江州府江州府

天保元年辛酉年壬子年

御書長春府江 江州府江州府

一 御書長春府江 江州府江州府







内山傳之入之入物之入之入物之入  
色之入之入物之入

壬子年

此所年竹年号月日記之入之入

前之入之入竹之校事係以之竹不

徳心堂

天明元年壬子年壬子月日

一 徳心堂

修和山所修海山礼

新心 清心之竹竹之竹之竹

城之入之入之入之入之入之入之入

山はま之入之入竹之竹之竹之竹

新心之入 竹心丸物丸若年

高之入之入之入之入外後田之入之入

之入之入和国念之入之入之入之入

外下之入之入之入之入之入之入之入

之入之入之入之入之入之入之入之入



了のあゝ有物尔りてとあるは  
く無りしは

右に此何本附はし付  
所平此初此向大は方と相弱はる  
は限はるは心はしとる

壬申月廿日  
村之三十四市  
末吉吉長

此以年付以是年ははるは原は是  
中し中しは徳入

天明元年五月廿日

一以年付しは天明元年は仕は  
何屋也 塚は是し  
右に合し又考訂し徳入

天明元年 壬申年五月廿日

一 明は向ははるは  
右に合しははるは  
入年



一 以乃命 行本丸乃如名就章下

以乃命 行本丸乃如名就章下

以乃命 行本丸乃如名就章下

以乃命 行本丸乃如名就章下

一 以乃命 行本丸乃如名就章下

以乃命 行本丸乃如名就章下

以乃命 行本丸乃如名就章下

一 以乃命 行本丸乃如名就章下

以乃命 行本丸乃如名就章下

一 以乃命 行本丸乃如名就章下

以乃命 行本丸乃如名就章下

天部

以乃命 行本丸乃如名就章下

以乃命 行本丸乃如名就章下

以乃命 行本丸乃如名就章下

以乃命 行本丸乃如名就章下

以乃命 行本丸乃如名就章下



右の色向しる事

壬午月九日

村之平  
末吉善久

天明元<sup>辛</sup>年六月九日

同村人

一 此の事

善久善久  
此の事

此の事

此の事

此の事

六月

此の事

天明元<sup>辛</sup>年六月九日

右の事



大目付

以目付<sub>h</sub>

七月

御白書院

國持以事<sub>上</sub>

松平左衛門

井伊玄蕃

松平左衛門

但此後志<sub>内</sub>取<sub>外</sub>

内<sub>外</sub>事<sub>外</sub>八<sub>外</sub>事<sub>外</sub>

大目下

外<sub>外</sub>方<sub>外</sub>石<sub>外</sub>以<sub>外</sub>上<sub>外</sub>子<sub>外</sub>

交代<sub>外</sub>事<sub>外</sub>

表<sub>外</sub>事<sub>外</sub>

金<sub>外</sub>地<sub>外</sub>院<sub>外</sub>

後<sub>外</sub>持<sub>外</sub>院<sub>外</sub>

法<sub>外</sub>事<sub>外</sub>法<sub>外</sub>服<sub>外</sub>以<sub>外</sub>医<sub>外</sub>除<sub>外</sub>



幸得之方分紅家子之間也

以信儀流日婦子

居之間信日婦子

以奏之書日婦子

之々々

布衣以之之信人

以彼以席之信人

布衣以下也

乃得之信 乃得之信

日彼以席之信人

布衣以下也

右於席

若若若 乃得之信

天明元辛 五年七月日

乃得之信



一今日

若若若若

御園久々

以礼也

御本丸也

城守中 古和也 水珍也

了り也 石也

御本丸也 御本丸也

也也

右 御本丸也

了り也

天明元<sup>丁未</sup>年八月廿日

石見中

一 御本丸也

御本丸也

御本丸也

御本丸也



一 赤瓦の向ふは法高の法物に布衣  
以上所収人其又 所自之以上  
一 及人高命の向赤瓦の向  
傷之医師の向赤瓦の向  
城の向能の向赤瓦の向  
張其向赤瓦の向赤瓦の向  
向赤瓦の向赤瓦の向赤瓦の向  
赤瓦の向赤瓦の向赤瓦の向

表向赤瓦の向赤瓦の向赤瓦の向

一 赤瓦の向赤瓦の向赤瓦の向  
赤瓦の向赤瓦の向赤瓦の向  
赤瓦の向赤瓦の向赤瓦の向

赤瓦







何事一由... 何事一由... 何事一由...

十一日

天曆元... 辛... 年... 十一月... 日...

十一月廿一日

一 十一月廿一日

... 十一月廿一日 ... 十一月廿一日 ...

... 十一月廿一日 ... 十一月廿一日 ...

... 十一月廿一日 ... 十一月廿一日 ...

... 十一月廿一日 ... 十一月廿一日 ...

... 十一月廿一日 ... 十一月廿一日 ...

... 十一月廿一日 ... 十一月廿一日 ...

十一月廿一日

一 十一月廿一日

... 十一月廿一日 ... 十一月廿一日 ...



但去而往色之... 後凡之...  
了乃... 礼事

一 右... 付... 礼... 事...  
古... 付... 礼... 事...  
右... 付... 礼... 事...

一 右... 付... 礼... 事...

此... 事... 付... 礼... 事...

此... 事... 付... 礼... 事...

天... 元... 辛... 丑... 年... 十... 月... 廿... 七... 日

右... 事... 付... 礼... 事...

一 右... 事... 付... 礼... 事...

此... 事... 付... 礼... 事...

此... 事... 付... 礼... 事...

此... 事... 付... 礼... 事...



十月

此月年付年号月日等一以爲先  
以年付之別也後以子之何  
以子之何也後以子之何

天有元壽 五年十一月三日

一子社

家系譜内云以假如仕之由一上序  
おひく老申引引流因信与流  
し年名 以書年付大目付物公何  
拜見

有之参考一上以年付年一了

徳小



憲政編纂

丁廿三

丁廿三

御方：様

御方：様  
憲政編纂  
丁廿三



憲教類典

丁  
廿三

一ノ廿三  
御方：様



嘉永五 乙子年 八月廿六日

八重姫君 柳少進りしは

一 歩の節し 長屋 未窓 共 伝

子及 以 田下 戸を 立 事

手桶 基 提 灯 取 出 事

人 留 事 後 事 仕 事

か 事 留 事

但 侍 見 事 事 事 事 事

事 事 事



一 掃除く後少く節ハ枯分は思ふ毎  
 多々々々々々々々々々々々々々々々  
 一 師匠より節々少く書人書由石  
 石書法少く少々  
 有し趣了るお福也

宝永五戊子年八月廿日

宝永五戊子年九月廿日

一 娘君様少く節々々々々々々々々々  
 今心少く人留し思ふ少く廣小  
 留し少く少く師匠少く先少く立  
 留し少く少く思ふ思ふ思ふ思ふ  
 少く思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ  
 一 少く節々々々々々々々々々々々々々







享保七<sup>壬</sup>寅年十一月六日

芳姫君様 此書を以て付

一 此書を以て十一月三日 停止

一 並書陸上 不書

十一月六日

享保八<sup>癸</sup>卯年八月八日

一 尾法中納言殿 此書中 逝去 付

十一月十日 此書 停止 不書  
陸上 不書 付

享保八<sup>癸</sup>卯年八月八日

右殿 尾法殿 此書中 付  
何姫君様

此書を以て十一月三日 停止 付

書上

享保十八<sup>癸</sup>丑年十一月三日



一 御簾中一掃不餘一知内書生  
不長好叶一遊去 何  
古機嬾明四日  
御本丸每丸一

一 病重知少一而 一書中亦系  
古更去一 宅一 供名一 下一 是  
越一 事一

一 去玉在色一 而一 一限在婦子  
古更中一 亦系古更 古更亦上供礼

一 下一 古更越一 事一  
善清物一 一依是一 古更亦  
古更一 一古更 停止一 事一

十月廿日

享 保 大 癸 丑 年 十 月 四 日

古更

古更掃水何古機嬾明五日



〜 気候 上 多少 以 上 雨 供 養  
下 迄 迄 迄 迄

一 西 丸 上 明 五 日 下 為 熱 出 仕 上  
佛 車 丸 上 上 及 迄 城 上

右 一 迄 下 迄 迄 迄

十月 四日

享保十六 癸 丑 年 十 月 四 日

大目付 上

善 清 上 所 迄 上 事 上 迄 迄 迄 迄  
右 一 迄 下 迄 迄 迄 迄 迄 迄 迄 迄

十月 四日

享保十六 癸 丑 年 十 月 五 日

大目付 上



御本丸上、明六日、石藏屋伺  
し、及ん、尤、月、中、書、中、定、上、供、上  
石、上、書、中、定、上、供、上

西丸上、石藏屋伺

十月六日

西丸上、溜、詰、石、滯、代、荒、也

城、上、外、下、石、上、上、豊

前、書、書、上、供、上、下、石、上、上、豊

同七日

西丸上、溜、詰、石、滯、代、荒、也

美、草、名、上、溜、詰、人、下、石、上

城、上、外、下、石、上、上、豊

石、上、書、中、定、上、供、上

同八日

西丸、詰、書、中、定、上、供、上

石、上、書、中、定、上、供、上

石、上、書、中、定、上、供、上















一 如凡之湯法之象凡法凡之象也

當了之也 城下

有之通了之也

十月

元文 乙庚申年三月

一 梅溪前中細之卒去、付以終屆極

上為同以橫嫌 抄年加如之也抄年

陸身身 抄年大隅也 湯法越前也

沖之身 庶流以漢代古名 法凡

少身之 身斗 能也身宅 一供也

下身之 越山 在也身之 一而之也

身之身之 城下

但大之 外ハ 以橫嫌 何、身之也

一 竹之代 標以橫嫌 何、身之也

有之通了之也







寬保元 辛酉年二月晦日

一 國持大名外松大名 諸元市奏  
當婦子通 旨 縁敷 諸日婦子  
表向市役人 寄合 示 昭 旨 宅  
城 示 及 旨  
諸法 市 儀 代 流 旨 家 原 旨 旨 芝  
寄 旨 旨 市 役 人  
有 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨  
以 昭 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨

二月晦日

寬保元 辛酉年三月朔日

一 三月二日 諸元市  
有 旨 旨 市 儀 燈  
有 旨 旨 旨  
日 三 旨  
上 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨 旨



城

而凡... 例... 法... 名... 外

城

右... 延... 了... 如... 解...

三月

寛保元<sup>辛</sup>酉年三月四日

大月

月

天英院

御出被三月八日

申

右... 延... 向... 上... 下... 延...

寛保元<sup>辛</sup>酉年三月十日

月



二月七日

少内少藏 媿はる家始 惣事仕

徳去る 少内 少内 少内

城去る 少内 少内 少内

山下 少内 少内 少内

右へ通る 少内 少内

三日

延喜元年 甲子年 二月廿六日

少内 少内 少内 少内

右へ通る 少内 少内 少内

少

延喜元年 乙丑年 三月廿六日

延喜元年 乙丑年

延喜元年 乙丑年

延喜元年



是

一 利根娘手杖

古新是手明子

古の四時書仕りしに丸

古書仕りしに丸

一 以物と古の事共古と古の停

止し事一但書結し古書古の起

了古の起し古の起し古の起し

古の起し古の起し古の起し

古の起し古の起し古の起し

延享二乙丑年三月十七日

雅年以殿

古の起し

古の起し

古の起し

古の起し



破之方法

芙蓉之白皮

右明十八日 乃出極端 何

佛本丸而丸 出信之極 了七喜

以上

壬子二月十七日

延享二年壬子二月十八日

信局之極白皮

古月付

一 乃出極端 何明後十日 其本四日

極之信之極

大佛 乃極 大納之極 乃何

少極端 而丸 出信之極

一 其本十日 廿六日 其本十日 乃何

乃本丸而丸 出信之極 乃何

乃本丸而丸 出信之極 乃何



三三三三三

三三三三三

寛永元 戊辰年二月廿六日

佐藤守殿

此同付 一庄後

此同付 一庄後  
此同付 一庄後  
此同付 一庄後  
此同付 一庄後

此同付 一庄後

事

一 西丸上 兼出仕

大納言 兼出仕

下取 同事

病身 初少 而 自 事 中

但 事 中 兼 出 仕

取 同 事

大納言 兼出仕







從病幸知廿二日  
宅上供名物以之  
向山事

寬延元戊辰年二月廿八日

信流与殿山月身入山後

明後部白 自記之 山礼出仕之

山可殿下山如解人

二月廿九日

寬延元戊辰年二月晦日

信流与殿山後

而此山海法之山石之山 法莫

草之山之山後人出仕

古納之山後山後山後

山本山之山及出仕



右ノ通下ノ水觸ルニ尤西丸は同升  
ハ茂下ノ水也

二月

寛延元戊辰年三月十日

寺法寺殿は同升ハ茂

寺法寺殿

三月十日

申上刻

寺法寺

石刻

寺法寺送

一 寺法寺殿は同升ハ茂

右ノ通下ノ水觸ルニ尤西丸は同升

寛延元戊辰年三月十日

寺法寺殿は同升

寺法寺



法新屋換出法号  
至心院換と書好

寛延元 戊辰年 三月五日

寺持身殿内付入出後

至心院出法号

三月廿五日  
日十八日

有之趣之如台 了也 以手了

寛延元 戊辰年 三月七日

加加久也、殿出後

出同好

大納言権出中候 申換極目明

後九日 卯死、想如仕了事

但病身初十日雨、休了也



定一供名 下五名  
右一過 下五名  
左一過 下五名

三月七日

庚子年 庚辰年 三月廿七日

三月廿七日

右一過 下五名 左一過 下五名

仙洞 右一過 下五名 左一過 下五名

右一過 下五名 左一過 下五名

右一過 下五名 左一過 下五名

右一過 下五名 左一過 下五名

右一過 下五名 左一過 下五名

右一過 下五名 左一過 下五名

右一過 下五名 左一過 下五名

三月

三月廿七日 三月廿七日 三月廿七日



寛文五年辰年四月四日

古月付人

古細多様は是明付明後十二日  
留詰りて申す所は諸元は善き事あり  
丸上出仕りてあり  
在りて是れおとせし丸あり古月付人  
て之を返せし

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

寛文二年己巳年四月九日

古月付人

一 為千定は方江矣 古月付人 長根橋  
よりしは及前の人撰りて候は流  
目付古月付人 目付お勤り候は下候  
尤は流方古月付人 お勤りて候は勤事  
一 古月付人 古月付人 古月付人  
古月付人 古月付人 古月付人  
古月付人 古月付人 古月付人  
古月付人 古月付人 古月付人







衣衣 衣衣 坂衣衣 橋衣衣 山川河  
一ツ橋 山川河 平川河  
衣衣 山川河 平川河

寛文三 己 己年 三月 十日

信濃守殿 古後

古後

五千石 内方 事九十九石 江戸 古後

事

寛文三 己 己年 七月 十日

信濃守殿 古後

形 形 形 殿 山川河 申 遊 去 月 今 十

二 日 分 十 四 日 止 止 止 止 止 止

他 事 古 後 古 後

古 後 古 後 古 後



大御所様 大納言様附 申付

長毛 下迄 御座候

左方 御座 院殿 遊去 付 候 候

申付 申付 申付 申付 申付 申付 申付 申付 申付 申付

一徳入

寛曆二 壬申年 九月十九日

信濃守殿 出候

申付

一 日 院 様 申 付 事 候 事

申付 申付 申付 申付 申付 申付 申付 申付 申付 申付

申付 申付

申付 申付 申付 申付

九月十九日

寛曆二 壬申年 九月十九日

信濃守殿 出候







一 此等處一一長勤苗入山名此等處  
此後氏此苗年一一苗日三三苗  
也

定曆二壬申年九月廿四日

吾同少柳殿出後

法同付人

一 月克院樣

法果牌ハ

桂昌院樣 沙木殿 佛堂殿 外及

沙厨子 沙安堂 下七折ノ事

定曆二壬申年九月廿五日

法海寺殿出後

一 沙厨子、沙安堂、下七折ノ事

此法寺付令文、山ノ中致校令ノ總合



宝曆二壬申年九月廿六日

壬申年九月廿六日

壬申年九月廿六日

一 月光院様十月三日未上刻

湯島権

宝曆二壬申年九月廿六日

壬申年九月廿六日

一 月光院様 湯島権 壬申年九月廿六日

壬申年九月廿六日

宝曆二壬申年九月廿六日

壬申年九月廿六日

壬申年九月廿六日

一 月光院様 湯島権 壬申年九月廿六日

壬申年九月廿六日



月尔... 每... 正... 丁...

宣曆二壬申年九月廿七日

伯老... 殿... 后...

大月廿八

一十月三日... 沛... 枝... 帝... 后... 及... 部...

与... 号... 少... 一... 苗... 田... 后... 高... 尔... 后... 尔...

法... 不... 尔... 尔...

有... 一... 通... 丁... 尔... 后... 通... 尔...

九月

宣曆二壬申年十月廿日

伯老... 尔... 殿...

大月廿八

十月

初日... 六日... 中... 日... 七日... 弦... 初... 日... 八日...







有之延 下七生正の尤 而丸 月付了  
可之生事

可生年分へ事へ 志之

日光院標出遊云へ云長 修出

致修年 古修了 致物上へ 致一徳  
入付修年 了之修了

宝曆二壬 申年 十日 終了

三 月 少 補 殿 出 降 古 月 入 入 可 之 修 了

日光院標出修了 初日 乃 向 出 裁

燭 海 法 修了 召 法 出 奉 去 高 斗

少年 丸 西 丸 了 了 了 出 修 了

一 所へ 向 病 事 知 少へ 而へ 二 月 書

老 中 修 了 了 完へ 修 了 了 了 了 修 了

去 了 了 而へ 老 中 修 了 了 了 了 了 了

了 了 了 了 了

一 可 外へ 而へ 出 修 了 中 裁 燭 向

了 了 了



衣之趣了之如福小衣 西丸 西月日  
上卷了之趣了

十日

宝曆三 癸卯年 十月十日

信使有殿 古後

西月日

明子了日 四少所法 古名 法 旗本 西丸

仕何茂 服 约 少袖 子 袴 了 西丸 古

西丸

十月十日

宝曆三 癸卯年 十月十日

信使有殿 古後

西月日

西丸 西月日

娘 居 袴 了 西丸 古



丁未年解人衣西丸古同廿一七丁  
此七五七

十一日十一日

宝曆三環万年十一日十一日

信法寺殿古同古法殿

古古古法殿 修制古古法殿

古古法殿 西古西丸古古法殿

表仲仲仲仲仲 御本丸西丸善善

表仲仲仲仲仲

古古法殿 西古西丸古古法殿

十一日十一日

明和三年 戊午二月十一日

松平存と初監殿古法殿

古古法殿 古古法殿



由内院一四方

有之也

修刻之事

明和三年丙戌年十一月七日

杉平右卫门将监殿出候

佛月院一四方

在格式当时演西女中一延

修刻之事

十一月

明和六年己丑年九月十七日

杉平右卫门将人殿出候

一 杉平右卫门将人妻所之死去

之方福定氏之内忌服长为更事

杉平右卫门将人妻死去之付为向佛

横垣明白四时海法所之修刻



法書名古書斗  
出信之事

御本丸古斗

一 有、西、病、音、初、少、西、二、月、  
當、先、申、定、一、使、名、耳、公、立、亦、  
面、一、名、志、申、一、名、取、以、飛、札、下、  
耳、以、取、以、付、外、一、而、一、出、仕、并、向、  
涉、穢、嫌、子、乃、  
一 普、信、一、子、乃、亦、止、以、物、  
三、言、停、止、一、事、

有、一、通、一、長、和、弱、  
如、月、廿、七、日

明和八年辛卯年八月廿七日

杉平右之丞監殿此後

御、意、様、此、不、倒、以、様、子、長、持、有、  
一、方、様、大、細、之、様、涉、意、様、  
乃、向、涉、穢、嫌、明、廿、七、日、御、本、丸



西丸一書出仕

一 病室 幼少 隱居 一面 八月 書

表 仲 去 後 書 定 一 供 志 了 之 度

越 山 事

一 在 之 如 在 邑 一 面 一 志 老 仲 去 後 書

之 後 取 下 取 札 了 之 度 取 越 山 事

右 一 通 了 之 度 取 解 下

八月

此 山 事 付 出 不 例 一 取 下 德 入 付 取 仲

了 之 度 取 解 下

明和八年癸卯年八月廿日

一 佛 齋 採 出 不 例 出 取 長 生 不 之 為

叶 之 年 一 上 刻 之 札 其 取 佛 取

依 一 明 抄 百 佛 取 丸 取 取 下

取 之 出 取 取 下

一 病 室 幼 少 隱 居 一 面 一 志 仲 書



後身之居既定之供之 下之居越  
以事一

在之在色一而一之在仲其居也  
之居以之供之 下之居越  
右一之居下之居也

八月廿日

明和八年辛卯年八月廿日

一 仰看極樂去之極下之今日之  
夢境明物停止之今日之  
一之在極下之日之極下之今日之  
右之在極下之日之極下之今日之

八月廿日

明和八年辛卯年八月廿日

在之在極下之日之極下之今日之



御膳中 山藏 燻 何

八月

御市丸 西丸 光

廿二日

あし 社

廿三日

溜 法

比 漢代 土 名

之 家

石 之 官 法

其 甚 者 之 官  
内 没 人

在 一 通 也

城 之 松 下 之 石

福 小

昭和八年 卯年 八月 廿三日

卯年 在 京 古 吏 殿 西 後

御 意 極 之 社 禁 死 御 以 存 筆 法

去 其 其 也 之 官 上 修 物 之 事 月 廿

之 停 止 之 官 以 其 之 下 之 也 觸



八月廿三日

明和八年卯年八月廿三日

御膳中止候様向

八月廿四日

御本丸斗

詰丸

日記

溜法

廿五日

三ツ家

存一合詰

草子書等し百

以役人

少本丸

御本仕

馬丸

存一色電

城、松、下、丸、福、下

八月



明和八年卯年八月廿九日

松平左京大夫殿出役

一 御膳中 古様 御伺

御本丸斗

九月廿日

御出仕

但西丸斗 二例目 宅地 御出仕

斗出仕

御本丸斗

御出仕

三日

御出仕

御出仕

御出仕

御出仕

御出仕

御出仕

御本丸

御出仕

御出仕

御出仕

御出仕

八日



明和八年卯年八月廿九日

招年用防之殿出後

巾着標 巾出披

九月十日 未刻

右之通 以年

明和八年卯年九月廿日

招年用防之殿出後

一 巾着標 巾牌号

心親院標 巾着標 以年

明和八年卯年九月八日

招年用防之殿出後

心親院標 巾着標 以年

巾着丸 巾着丸 以年 以年 以年

曆年一月麻 上下 以年 向 吾服



右白紗 西丸 出廣 向平 振受  
御本丸 西丸 表向 平服 右一 通長  
信出下 三々 右一 通長

明和八年卯年九月九日

松平右と右監殿出後

九月九日

一 重陽 八付 内三番 始 徳大 右一 通長

服紗 少袖 長袴 玉用 也

城一 事

一 西丸 上ハ 少例 出三番 始 徳大 右一 通長

五外 五外 白 出三番 分斗 也

城一 事

右一 通長 下七 右一 通長

明和八年卯年九月九日

松平周治 右殿 出後







明和八年卯年九月九日  
杉平園院之教書後

一 心親院様法事 九月十日より  
同寺よりと 又〜の 有〜月十九日  
廿夕 南のり  
大細之様 亦〜日 万壽姫様  
より法附法事〜

九月

法事付し 末々 有る  
心親院様 葬儀 終出  
附申〜 法事〜 終出〜 三徳公

明和八年卯年九月

法事或候

一 卯九月十日  
一 同日

法讀經  
胎曼陀







明和八年卯年九月

心親院様

申出被

申出下

杉平因防也

申伏

杉平右京左史

水野左衛門守

申通被下

平川口より下 山崎下 右左門

尾島角迄也

松倉徳助守

山崎下 右左門 尾島角迄下

去年結電也 尾島角迄也

三浦志守

去年結電也 尾島角迄也 船遠

比の外 結電也 尾島角迄也

島内徳守

結電也 尾島角迄也 明地也

本多平八郎

結電也 尾島角迄也

結電也 尾島角迄也 上野

右之儀 寺上人

結電也

上野 結電也 尾島角迄也

結電也

横村新三郎







西元一千九百零九年

一 佛法事 古海山 月 未見 廿三日

佛事 古海山 月 未見 廿三日

法事 古海山 月 未見 廿三日

寺 城外 月 未見 廿三日

宅 一 佛事 月 未見 廿三日

九月

古海山 月 未見 廿三日

古海山 月 未見 廿三日

古海山 月 未見 廿三日

古海山 月 未見 廿三日

明和八年 卯年九月十日

古海山 月 未見 廿三日

古海山 月 未見 廿三日

九月



十五日 卯辰上 卯辰家始月次出仕  
一而

廿日 卯辰家始 布衣 上

廿二日 卯辰家始 湯注 注衣名

十月

初一日 卯辰家始 月次 出仕

而

八日 卯辰家始 湯注 出仕

有 一 通 也 城 山 根 了 是 也 福 人

明和八年卯辰年九月十九日

杉平右左衛門監殿 古後

明和八年卯辰年九月十九日 卯辰家始 月次 出仕

卯辰家始 月次 出仕 卯辰家始 月次 出仕

有 一 通 也 城 山 根 了 是 也 福 人

九月十九日

明和八年卯辰年九月十九日

杉平右左衛門監殿 古後



大納言藤山新之丞の解の板  
公方福右衛門 仰之に申付陰白  
柄も長為之に付事目新の表  
出御の折、年月、物と柄の者  
事目新の表、手摺、  
中  
左之邊、向、

九月

付事目新の表、左の  
心親院孫甚家御の常長 物新の  
物新の表、物新の表、物新の表

明和八年卯年九月晦日

松平右之丞監殿由後

事目新の

大納言藤山新之丞 出御の折、  
先年事目新の表、物新の表、物新の表



三石之字子子乃之候也  
有之趣了之如福也

九月

明和八年卯年十月九日

杉平因防也殿古海

古納之孫也名明也明後十日

而凡上湯法之象也了之台法也

古の由了之如候也

石之趣了之如福也

十月九日

天明八年申年三月晦日

杉平因防也殿古海

古の由了之如候也

石之趣了之如福也



右に通るるお福の

付は半付るるお福の 御入の御件  
了る御件

安永三 甲午年十一月十日

此月付

一 此月付の御件は 御入の御件  
了る御件

右に通るるお福の 御入の御件  
了る御件

十一月十日

安永三 甲午年十一月十日

御入の御件  
了る御件

一 此月付の御件は 御入の御件  
了る御件



新名正 修治の少後候了付  
御前丸 殿中一の少中候  
子丸

付申付殿中一の少中候了付

安永三 甲午年十月九日

少中候

一 少中候の少中候 少中候候了付  
新名正 修治の少中候明後

少中候候了付 少中候候了付  
名曰婦子 少中候候了付  
日婦子 少中候候了付  
布衣の少中候候了付  
少中候候了付 少中候候了付  
一 少中候候了付 少中候候了付  
少中候候了付 少中候候了付  
少中候候了付 少中候候了付  
少中候候了付 少中候候了付  
少中候候了付 少中候候了付  
少中候候了付 少中候候了付







安永四乙未年十月朔日

一 田舎種娘坊方々白

師中女上

修前、服坊札御付し、面し、松  
席し、坊方中、漢也、

坊方、修前、書留、坊方、坊方、  
坊方、坊方、坊方、坊方、

安永四乙未年十月朔日

一 田舎種娘坊方々白

修前、服坊札御付し、面し、松  
席し、坊方中、漢也、

坊方、修前、書留、坊方、坊方、  
坊方、坊方、坊方、坊方、

安永四乙未年十月朔日

坊方、

一 種娘坊方 種娘君様とて、



以平部一做十 巾布丸步月  
天与物一とハ先と今と一と一  
右一過一了と水福ハ心丸步月付  
と一了と一也

安永四乙未年十月朔

一 種娘五種歩月  
大細之極歩月一は續く歩月

心持おとと一丸丸歩月  
了と一也

安永四乙未年十月朔

一 田安種娘歩月 湯衣女  
御衣ハ付ハ歩月後明ハ  
少袖麻上下長月四時無仕  
御衣丸お解ハ丸ハ了と出仕







事七日

程服五換

御本丸一

此月五日於...

御本丸五丸

服中程服少袖麻上下

此月五日

服中一...

安永四乙未年十一月五日

此月五日

一 程服五換

御本丸一...

於... 御法... 代...

之... 御法... 日...

之... 御法... 日...

之... 御法... 日...

御本丸五丸...

出... 御法... 初...

之... 御法... 志...

上... 御法... 志...

之... 御法... 志...











實政二 庚戌年十月二日

多在丹時寺殿後

御書生類 十月四日申時刻

御書權

實政二 庚戌年十月廿八日

杉平伊豆守殿後

御書王類少

御書權少

有之題於

實政三 癸卯年三月八日

蓮光院權少不豫

為 付 之 辰 刻

依 之 有 伺

留 結 有 之 旨 結 少 奏 金 之 十 五 斗



了之乎此也

一 古くは内二病氣幼少の面二日高

老中二供乞下るる越は左の

面二越中深心大願は花札

はより越は

一 古くは外二面二出仕英史極盛何

子好也

一 善法志は方事九十日

相下事十四のさるる停止

從高地牛二御也

右二毎下るる弱也

寛政三年 亥年三月十五日

松平越中少殿此後

草子完院極出法中

物上二後出由法中

上物法中二面二出香真下之無上



尤三ノ上ハクノ平服 日中ヨリ先人  
前以テ中ノ時ハ

他指方石以上ハ根ニ枝ヲ下  
ナ根ニ枝ヲ上ナ根ニ

有ニ 起テ其ノ福ハ

付年付ノ事ハ有ク

蓮光院標 山折ノ事ハ

修知ハト 徳知トクニ 徳入ハ

寛政三年 亥年三月十六日

杉平御伴也殿此後

三月十九日 午上刻 徳知標

蓮光院標 同日 未上刻 徳知標

一 佛法事 翌廿日 廿四日

有ニ 起ニ 山事



憲教類典

丁  
廿四

一ノ廿四

御三卿

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*



漢書卷之...

卷之三

一八四日

卷之三 丑年九月廿七日

師典家臣律條同

條

- 一 義事一以法別之起于外何
- 一 長松為成事一、存法事一、如族
- 一 具負偏頗者、多系、付了事付
- 一 若難友分別按及、付了、
- 一 了按及、



附取者ふて侍る

一 男女櫻の候年一振

て侍る

右に名候おきつて侍る

若狭二年九月廿七日

二十一日

張詰土侍書との

新見七右衛門との

方世十右衛門との

若狭二年九月廿七日

修

一 萬事法初し越平外侍との

とて三人並お侍り侍る

一 徳相と名候者にて侍り侍る

お侍り侍る御殿に侍り侍る

侍り侍り侍る別と罷及侍り

侍り侍り侍る侍る

附取者ふて侍る



一 男女櫻ノ後無シ 松ノ下ノ かしこ  
てしつる

右ノ水書 けりし也

芝山安二年九月廿七日

物産正法書  
宝賀 深七郎  
本意之内補

芝山安二 己丑年 十一月九日

佛典法下名修

定

一 佛典正法初ノ事 佛系ニテ  
山梨十古ノ 浅原平古ノ 伴龍  
云来け四人 一日一夜 ツ  
万事一長無シ 後中付  
下名哉 万も 不偏ノ 族  
用候 万ノ 万ノ 万ノ



















長高し一庭は春より暮 瑞くそ  
順順行経故以日人の中事下  
一 寺の智殿少五帝殿の時方は者  
とそと 右は五言と 延在と  
所盤殿方長中 中へ右何帯  
とあしと 少城階の中事し

元文二丁巳年空士月

寺の智殿形より殿  
少城内外は毎く 首後子少三  
家方と毎りておん故 寺は  
修しと 然と寺は一人 毎未り  
寺ととんそのも 相は 振と 成は  
而後と 寺と 修しと 毎り  
少中甲下と 毎りて おん 修し























面一切平川各年漢年五

一書一

一 御城出入は書と朝は御城極向

一 一と多事由は書不は分出入

一書一

一 一書由は殿書書 御城内而

一 一書時書合書一後書一御城刑

一 一書殿附一書書一書一書一

一 一書一書書一書書一書一書一

一書一

一書一

宝曆九己卯年十一月廿九日

一 一書由は殿書書一書一書一

一 一書配一書一

一 一書附一書一書一書一書一

一 一書中一書一書一書一



古之通為人心也

宣曆九月 卯年十二月廿九日

宣曆九月 卯年十二月廿九日  
宣曆九月 卯年十二月廿九日  
宣曆九月 卯年十二月廿九日  
宣曆九月 卯年十二月廿九日  
宣曆九月 卯年十二月廿九日  
宣曆九月 卯年十二月廿九日  
宣曆九月 卯年十二月廿九日  
宣曆九月 卯年十二月廿九日  
宣曆九月 卯年十二月廿九日  
宣曆九月 卯年十二月廿九日

去刑戶之殿書所用人之次  
多一之  
右一之  
十日

宣曆九月 卯年十二月十四日

一 右鼎之智殿刑部今殿之內  
山也 向後之人 之 諸事也



筆以召了... 且又... 不... 席... 十二月

十二月

定曆十二年五月十日

一... 且... 代

荒... 既... 今... 中...

但... 越... 事

右... 板... 合... 估... 海... 考... 一... 死... 礼... 了... 身... 越... 以



有之也了七おき

宝曆十二年

杉平右京左兵衛

稻垣少将之弟

是日ハ殿上お趣、候于外附  
市子内白出令、之、趣お出  
の候了は是之也

明和三年戊子年五月十日

市月付

徳川右衛門督殿

向後田舎中細之殿と稱す  
有之趣向、上、之、是、は、此  
市月付了、之、是、は、此

明和八年辛卯年五月十日



松平因房之殿以後

正徳志願書

田安中納之殿遊去、月

弓方振時、方定或之、以急服

其為、よりより

田安殿遊去、月、何、以、極、極

明、六、日、熱、知、信、より

他、山、中、山、外、ハ、至、凡、ハ、及

宅、城、より

一 病者、初、少、隠、居、し、而、ハ、自、書、し

老、体、定、止、供、養、を、至、心、勤、す

一 在、否、在、是、し、而、ハ、危、れ、を、憂、え

し、より

他、在、否、在、是、し、婦、子、隠、居、し

在、回、以

一 夢、寐、を、し、る、を、不、言、情、極、し、七、百、俣

止、し、事

有、し、通、り、を、知、解、し



五日

明和八年卯年六月廿六日

杉平因路少殿出候

萩原手取山止蓮

御膳中為伺出候様

六日

七日

海法之象存候一召詰莫  
容候一召出候人出仕

九日

出仕

十日

海法之象存候一召詰莫  
容候一召出候人出仕

十一日

出仕

十二日

海法之象存候一召詰莫  
容候一召出候人出仕

有候一連一召出仕

城人

國持大名

出候代大名 外松大名

有候

城人 日二召出仕

有候

出仕 御膳中為伺出候様



お向い

浦三島に流し向

右一七のと電

城三ノ日毎

日一毎の月多し電中定日

供名は機場了お向い

湯法

右電

城三ノ日

浦城の役

去るは出は例に電は浦機場了向

い

右一毎了は浦機場了向

浦電

城の

二月五日

明和八年卯年六月七日

杉年月防寺殿出候

浪田の機後寺に在

可名定或し就上物毎例年是



中乃何所擬據魯教  
付而之口精之也川  
尤而此以例年之  
上之  
右之

二日

明和八年辛卯年六月十三日

杉平因防中殿後

西本志

三  
三  
三

三  
三  
三

三  
三  
三

三  
三  
三

三  
三  
三

三  
三  
三







一 田安女中向之令之通 子生  
長之廣為向片付 次身  
定婚之方之夫之川移下  
佐助之田安料之依之亦亦續之  
少方之之之明之亦亦之  
後後人法為之而列之  
下筆之方知之亦亦之  
中一之之之之之之

天明八戌申年四月十日

抄年越中寺殿後

清水寺

一 法橋子向之令之通 子生  
長之廣為向片付 次身  
定婚之方之夫之川移下  
佐助之田安料之依之亦亦續之  
少方之之之明之亦亦之  
後後人法為之而列之  
下筆之方知之亦亦之  
中一之之之之之之







筋合の如くと存し、是より糸能く  
とるに、毎舟より、天調りて  
山事一

四月十日

寛政元年乙酉年十一月十日

水戸殿 御城附方達

水戸殿勝手向玉と不申すは  
し、い、付、不、色、向、定、或、物、上、也  
本、安、水、し、向、振、合、我、も、向、  
者、略、也、修、和、并、不、所、就、上、也  
亦、乙、酉、年、限、中、ハ、有、略、也、用、控  
多、し、ハ、物、更、け、上、当、又、格、外、ハ、  
候、約、也、故、聊、ハ、候、上、也、中、殿、殿  
長、波、有、略、也、水、戸、殿、初、め、ハ、  
山、事、相、也、ハ、候、上、也、山、持、也、ハ、



不<sub>レ</sub><sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>も皆<sub>レ</sub>市用<sub>レ</sub>換<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>概  
と<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>交<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>存<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>依<sub>レ</sub>白<sub>レ</sub>又<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>出<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>  
長<sub>レ</sub>中<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>是<sub>レ</sub>也

以<sub>レ</sub>市平<sub>レ</sub>付<sub>レ</sub>上<sub>レ</sub>市<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>中<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>部<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>立<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>  
部<sub>レ</sub>中<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>是<sub>レ</sub>也

寛政二<sub>レ</sub>唐<sub>レ</sub>咸<sub>レ</sub>年<sub>レ</sub>四<sub>レ</sub>月<sub>レ</sub>三<sub>レ</sub>日

此<sub>レ</sub>年<sub>レ</sub>殿<sub>レ</sub>此<sub>レ</sub>時<sub>レ</sub>附<sub>レ</sub>分<sub>レ</sub>是<sub>レ</sub>也

此<sub>レ</sub>年<sub>レ</sub>殿<sub>レ</sub>妹<sub>レ</sub>女<sub>レ</sub>事<sub>レ</sub>ん<sub>レ</sub>九<sub>レ</sub>日<sub>レ</sub>水<sub>レ</sub>平<sub>レ</sub>殿<sub>レ</sub>と  
以<sub>レ</sub>月<sub>レ</sub>妙<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>書<sub>レ</sub>に<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>月<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>衣<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>事<sub>レ</sub>と  
婚<sub>レ</sub>礼<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>事<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>月<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>川<sub>レ</sub>後<sub>レ</sub>高  
日<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>樂<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>上<sub>レ</sub>純<sub>レ</sub>奉<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>事<sub>レ</sub>と  
將<sub>レ</sub>又<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>到<sub>レ</sub>し<sub>レ</sub>内<sub>レ</sub>上<sub>レ</sub>同<sub>レ</sub>朋<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>事<sub>レ</sub>と  
連<sub>レ</sub>し<sub>レ</sub>換<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>交<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>存<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>部<sub>レ</sub>中<sub>レ</sub>  
と<sub>レ</sub>事<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>換<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>中<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>是<sub>レ</sub>也

此<sub>レ</sub>附<sub>レ</sub>礼

以<sub>レ</sub>海<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>成<sub>レ</sub>し<sub>レ</sub>換<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>事<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>是<sub>レ</sub>也



右ノ邊ハ所ル戦以テ下知ヲ滿  
山精ノ中ニ

此片申付内ニ申付シ新領之ヲ新領  
人入付申付テ申付

寛政三辛丑年十一月廿日

水戸殿ハ城附久員在テ多未長越ハ申付

水戸殿脇手向建年一而申付

上之年形分申付換毛多入付

際付申入申付必死ト云々支取

申付申付申付申付申付申付

申付申付申付申付申付申付

申付申付申付申付申付申付

申付申付申付申付申付申付

申付申付申付申付申付申付

申付申付申付申付申付申付

申付申付申付申付申付申付



お止すせは中一はまて付供人ホ  
しとて耳交しとてしとて付来一と年  
年既耳外ともは出し候る  
は用控は松しとて交は候る若  
押はは出はとも先はれはあり  
有は控授供耳越は中一とて  
いしとてとてとてとて付来しと  
ありはれとてとて何れとて  
ありともは候耳越はとてとて  
何とて不越はとてとてとて

付は年付はとてとてとて  
部中へ徳入付部中へとて



Handwritten text in a cursive script, possibly a diary or journal entry, located on the right page of the open book. The text is written vertically and includes several lines of characters.



